

藻岩山魅力アップ構想施設再整備

基本計画(案)

2009.3

札幌市 観光文化局観光部
株式会社 札幌振興公社

目次

第1章 藻岩山魅力アップ構想施設再整備にむけて	1
1-1 藻岩山再整備事業の目的	1
第2章 整備方針	2
2-1 基本的考え方	2
2-1-1 藻岩山魅力アップ構想における魅力アップの基本的方向	2
2-1-2 藻岩山再整備事業テーマ	3
2-2 藻岩山に求められる機能	3
第3章 施設整備計画	5
3-1 全体計画	5
3-2 集客計画	7
3-2-1 藻岩山の利用者数	7
3-2-2 再整備による利用者人数の設定	7
3-3 事業規模	7
3-4 各エリア別計画	8
3-4-1 山麓エリア	8
3-4-2 中腹エリア	11
3-4-3 山頂エリア	14

第1章 藻岩山魅力アップ構想施設再整備にむけて

1-1 藻岩山再整備事業の目的

藻岩山ロープウェイ・観光道路は昭和33年の北海道大博覧会にあわせて建設され、山頂展望台が昭和44年に建設された。そしてロープウェイ施設は昭和47年の第11回オリンピック冬季競技大会札幌大会に合わせ、現在の66人乗りのロープウェイに改修された。以来、現在に至るまで36年が経過し、施設の老朽化・陳腐化が顕著に表れ、安全性の観点・自然環境への配慮、バリアフリー等の観点、新たな魅力アップの視点からも、現在の藻岩山観光施設の再整備を望む声が札幌市民を始め、全国から訪れる観光客から年々大きくなってきた。

藻岩山再整備事業は、こうした声に答えるべく札幌市に於いて策定した「藻岩山魅力アップ構想」をベースに、国有林である藻岩山の豊かな森林資源を最大限に活用した市民や観光客の憩いの空間の創出、新たな施設の建設等により、総合的な集客交流施設を創り上げることが目的とした事業である。

具体的には、老朽化が著しい展望台施設の建替を始め、ロープウェイ・駐車場・観光道路・給排水設備等の周辺施設の再整備を行うことにより、安全性の向上を図り、さらに自然環境にやさしく、バリアフリーが整備された施設を整備することを目的としている。

特に国有林である藻岩山に相応しい事業として、「藻岩山の原生的な森林生態系などの貴重な自然環境の保全」と、自然とのふれあいの場を重視する「森林と人との共生」を、事業を推進していく上での重要テーマと位置づけている。



中島公園より藻岩山を望む

第2章 整備方針

2-1 基本的考え方

2-1-1 藻岩山魅力アップ構想における魅力アップの基本的方向

藻岩山の特性と目指すべき姿

(藻岩山の大きな特徴)

世界的にも貴重な人口 189 万都市に隣接する原始の姿をとどめた国有林

約 450 種の植物や約 80 種類の野鳥などに出会える森

北海道で第一号に指定された天然記念物の森(大正 10 年～)

鳥獣保護区に指定された森(昭和 61 年～)

札幌の街を一望できるという地勢から…「札幌の発展を見守ってきた山」

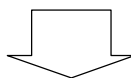
アイヌ語でインカルシベは、「いつもそこによって敵を見張ったり、行く先の見当をつけたりする所」という意味

毎年約 50 万人が訪れる展望の名所

スキー、登山、展望など市民のレクリエーションの場

札幌市内の小中学校の校歌に歌われることが多く、札幌市民の「心の山」

(目指すべき姿)



札幌が感じられる場所・札幌が見える場所 環境文化都市・集客交流都市のシンボル

藻岩山は、豊かな自然環境との調和を図るまちづくりをすすめるという意志に支えられ、貴重な原始の姿をとどめる国有林としてその保全が図られてきており、189 万都市となった現在でもこの森林は守られている。

藻岩山は、自然と共生する札幌のまちづくりの象徴として、多くの市民が誇りに思い、『札幌を感じられる場所・見える場所』として、市民や観光客の区別なく誰もが訪れたいような場所となることを目指す。

「環境文化都市」とは

札幌市環境基本計画において、札幌がめざす環境都市像と位置づけています。循環を基盤として自然の生態系と調和した持続可能な都市生活が実現し、参加と協働による都市づくりが定着した都市のことです。

「集客交流」とは

「ある地域に観光やコンベンション、ビジネスなど様々な目的で非定期的に訪れる人々を招き入れ、その中で人や情報、文化などが交流すること」です。札幌市はこの集客交流がさかんな都市＝世界の集客交流都市札幌を目指しています。

2-1-2 藻岩山再整備事業テーマ

国有林である藻岩山に相応しい、自然にやさしい施設づくりを目指し、下記を事業テーマとする。

- ・藻岩山の原生的な森林生態系などの貴重な自然環境の保全
- ・自然とのふれあいの場を重視する「森林と人との共生」

2-2 藻岩山に求められる機能

藻岩山魅力アップの基本的方向に基づいた、これからの藻岩山に求められる機能は次のとおりである。

(1) 森林学習機能（藻岩山の森を学ぶ機能）

藻岩山の貴重な森林環境を守るためには、多くの人が森林に興味持ち、同時に理解をしていくことが必要である。森を楽しむことを契機に、興味と理解を深め札幌市に存在する森林（天然記念物の森）を紹介し、森林環境の保全などを学ぶことのできる場を提供する機能が必要である。

(2) 札幌紹介機能

藻岩山はアイヌ語でインカルシペ（＝「いつもそこに上って敵を見張ったり、行く先の見当をつけたりする所」）と呼ばれ、先人の時代から石狩平野を一望できる山であった。現在においても札幌を代表する貴重な眺望地として毎年多くの方が訪れている。市街地を望める眺望を活かした、札幌の地勢、歴史、文化の紹介を行う施設や仕組みが必要である。

(3) 展望機能

札幌市街地の夜景眺望や、石狩湾・石狩平野・暑寒別の山並など、従来からの眺望ポイントとしての良地性を十分活用する。また、市街地の形成や、豊平川の変遷などを実際の景観を見て認識できるなど、眺望を環境学習の要素として活用し、展望機能の充実を図る必要がある。寒暖に左右されることなく、屋内からも展望可能なスペースの確保も必要である。

(4) 休憩機能

眺望と自然といった藻岩山の魅力をより味わうことができ、緑に囲まれ、ゆったりとした気持ちで時間を過ごすことのできるサービスの充実が求められる。また、登山者が四季を通じて気軽に立ち寄り休憩できる施設も必要である。

(5) 交流機能

藻岩山は、観光だけでなく多くの人が登山をし、スキーを楽しむ山である。札幌市民、登山客、観光客が直接触れ合うことが可能な場であることから、それらの多様な来訪者が交流することのできる場の創設が求められている。

(6) アクセス機能～環境負荷の低減とユニバーサルデザイン～

貴重な森林の環境負荷低減に配慮し、子どもからお年寄りに至るまで、また市民、観光客、さらには外国人と言った区別なく、誰もが自然環境と眺望を楽しみながら利用できる山頂へのアクセス機能の充実が求められている。そのため環境負荷低減の観点からロープウェイのリニューアル、旧リフト設備に替わる新輸送システムの導入、観光道路や登山道・遊歩道・駐車場整備等についてトータル的なアクセス機能の改善が必要である。

(7) インフラ機能

安定した給水確保の必要性

現在、山頂施設の給水は藻岩山中腹の湧き水を浄化し活用している。このため、水需要に応じた給水量の確保や衛生・環境面の課題が生じており、安定した水道水設備の導入が求められている。

臭気などの課題を改善する排水設備の導入

現在、山頂施設の排水は、し尿は汲み取りを行い、雑排水は浄化槽で処理の後、地下へ浸透させている。このことから、給水と同様に衛生・環境面での課題が生じており、特に、特にトイレの臭気は市民や観光客からの度々苦情を受ける原因となっており、早急な改善が必要である。

エリア	施設名
山麓部	山麓駐車場
山麓部	散策路
山麓部	ロープウェイ駅下広場・車寄せ
山麓部	ロープウェイ山麓駅
山麓部	山麓歩道美装
中腹部	ロープウェイ
中腹部	中腹広場・駐車場
中腹部	ロープウェイ・森林体験型輸送施設共同駅舎
中腹部	山頂森林体験型輸送施設
山頂部	展望台施設
山頂部	展望台へのアクセス施設(大型バス、障害者車両用)
山頂部	自然学習歩道
山頂部	給排水設備
山頂部	札幌紹介施設
山頂部	登山者休憩施設

3-2 集客計画

3-2-1 藻岩山の利用者数

(1) ロープウェイ

昭和 33 年に建設され、昭和 45 年に改造工事を行い、昭和 47 年に現在の形状において再開し、現在の利用者数は年間約 33 万人（平成 19 年度）となっており、増加傾向となっている。

(2) 観光道路

有料道路で利用者数は年間約 19 万人（平成 19 年度）となっている。利用台数、利用者人数は近年減少傾向にある。

(3) 登山道

5 つのコースがあり、推計で約 9 万人（推定参考値）の利用があると見られる。

3-2-2 再整備による利用者人数の設定

自然環境の保全やユニバーサルデザインの考え方に基づいた再整備により、利用者にとって安全で快適な利用が図られ、多様な自然とのふれあいの場が創出されることや、新たな魅力ある施設を設置することにより利用者の増加を図っていく。オープン当初においては、札幌市内の主要観光施設でもトップクラスの利用者数を目指し、その後においても新たなソフト事業の展開等を目指し利用者の維持を図っていく。

3-3 事業規模

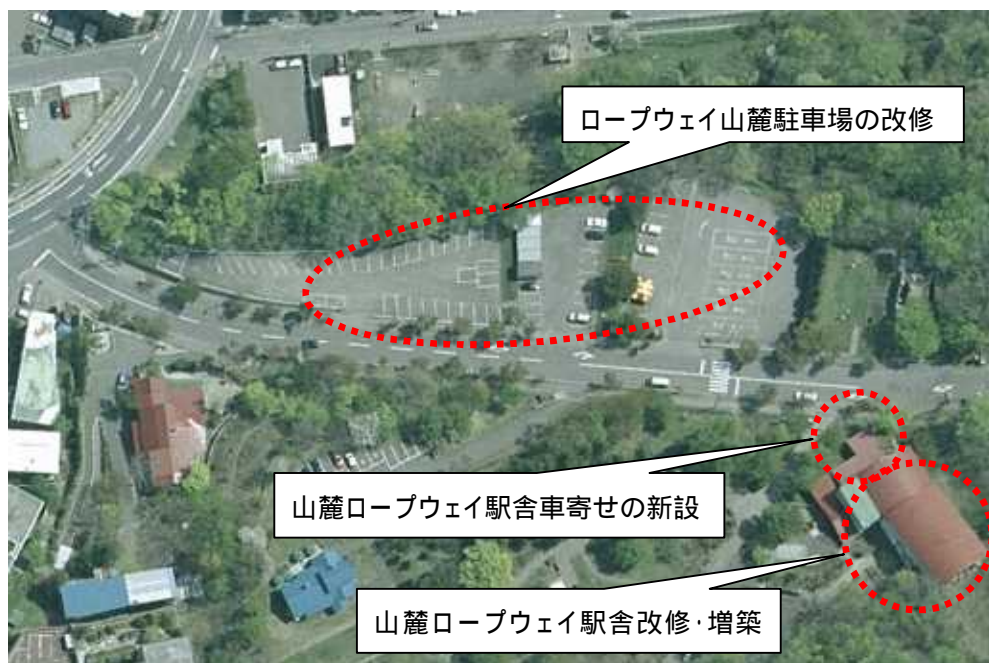
再整備にあたっては、事業採算性を考慮しながら全体事業の規模、事業費を決定していく。本事業においては、利用者にとって有効で満足して使える施設であることを念頭に置き、トータルライフサイクルコスト（計画・都市環境・建築物の計画から設計、施行、維持管理までのトータルコストのこと）をできる限り抑えた事業規模の設定を行なう。

また、本事業では機能・品質の向上とコスト縮減の両立が一層重要な課題であると考え、設計 V E（バリューエンジニアリング：「物の本質」を捉え、エンドユーザーである国民・市民が望んでいる要求を、機能・品質の向上とコスト縮減を両立させながら最適な調達を実現すること）を取り入れ、常に機能とコストの対比により最適な価値の確保を目指した再整備を進めていくこととする。

3-4 各エリア別計画

3-4-1 山麓エリア

山麓エリアは藻岩山を訪れる人を迎える玄関であり、より多くの様々な層の市民、観光客を迎えられるような整備を行う必要がある。市民・観光客が安全で楽しく積極的にレクリエーション利用に供することができる施設計画を行なうと共に、近接する水道記念館との連携等により貴重な自然環境の保全等についても理解が深められる施設整備を実施する。



(1) ロープウェイ山麓駐車場の改修

山麓よりロープウェイを利用して、藻岩山観光に訪れる人の利便性、安全性を高めるため、既設駐車場の再整備を行う。今回の計画により利用者の利便性向上、バリアフリーを目指して整備を行う。

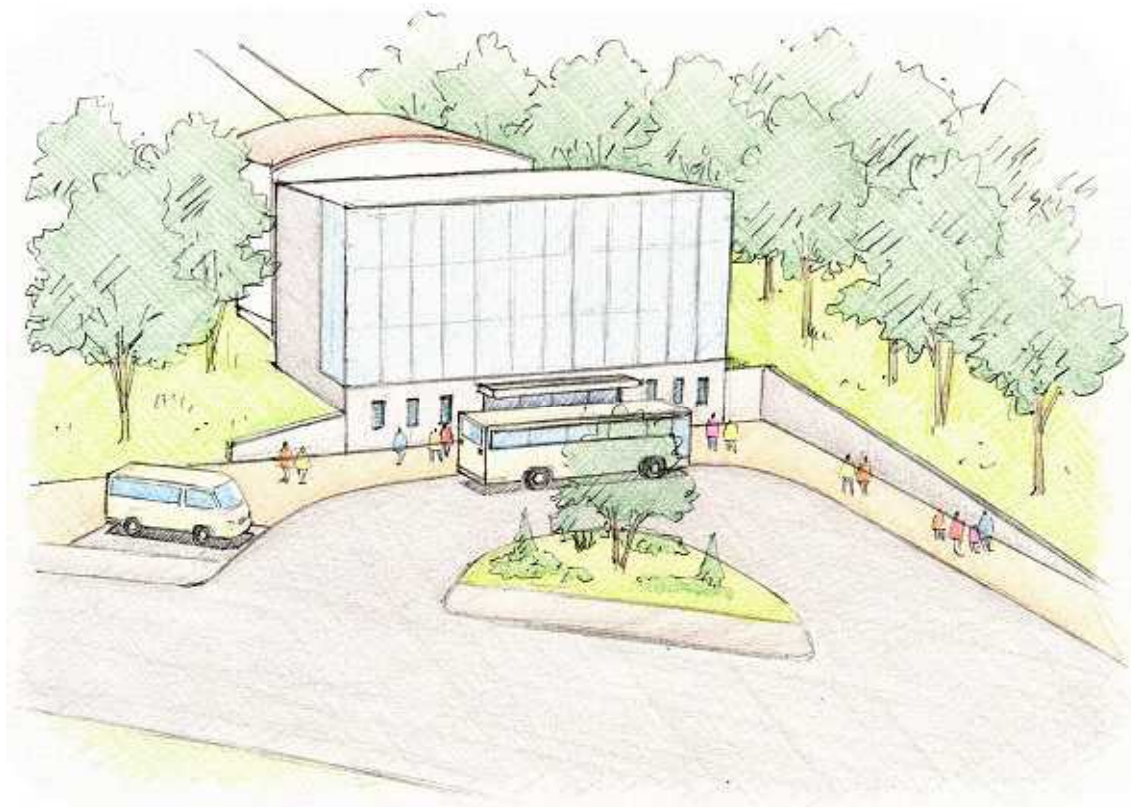
(2) 山麓駅ロープウェイ駅舎車寄せの新設・山麓歩道美装

市電等を利用して歩いて訪れる観光客や、観光バス利用の観光客にとって、市道から山麓ロープウェイ駅入口までの登りが非常に厳しい状況であった。これを解消するため、市道の歩道レベルからエレベーターを利用してロープウェイ乗降プラットフォームのレベルまで行ける計画とする。車寄せ設置部は現在、山麓ロープウェイ駅舎裏斜面を掘削造成し、整備する予定である。

特に、市電等を利用して歩いて訪れる観光客にとって、藻岩山山麓通交差点から山麓ロープウェイ駅舎までの市道の勾配が急なことから、ロードヒーティングの設置や、坂道での身体的負担を軽減する方策を検討する。

(3) 山麓ロープウェイ駅舎改修・増築

藻岩山の観光施設において、山頂展望台と同様に老朽化が目立っている。ロープウェイの索道設備が設置されている駅舎南西側半分を残し、利用者へのサービス・管理に使用している北東側の建物施設を解体撤去（駅舎南西側半分とは別構造体）し、駅舎南西部に訪れる観光客が利用しやすい施設の増築を検討する。



山麓ロープウェイ駅舎・車寄せイメージパース

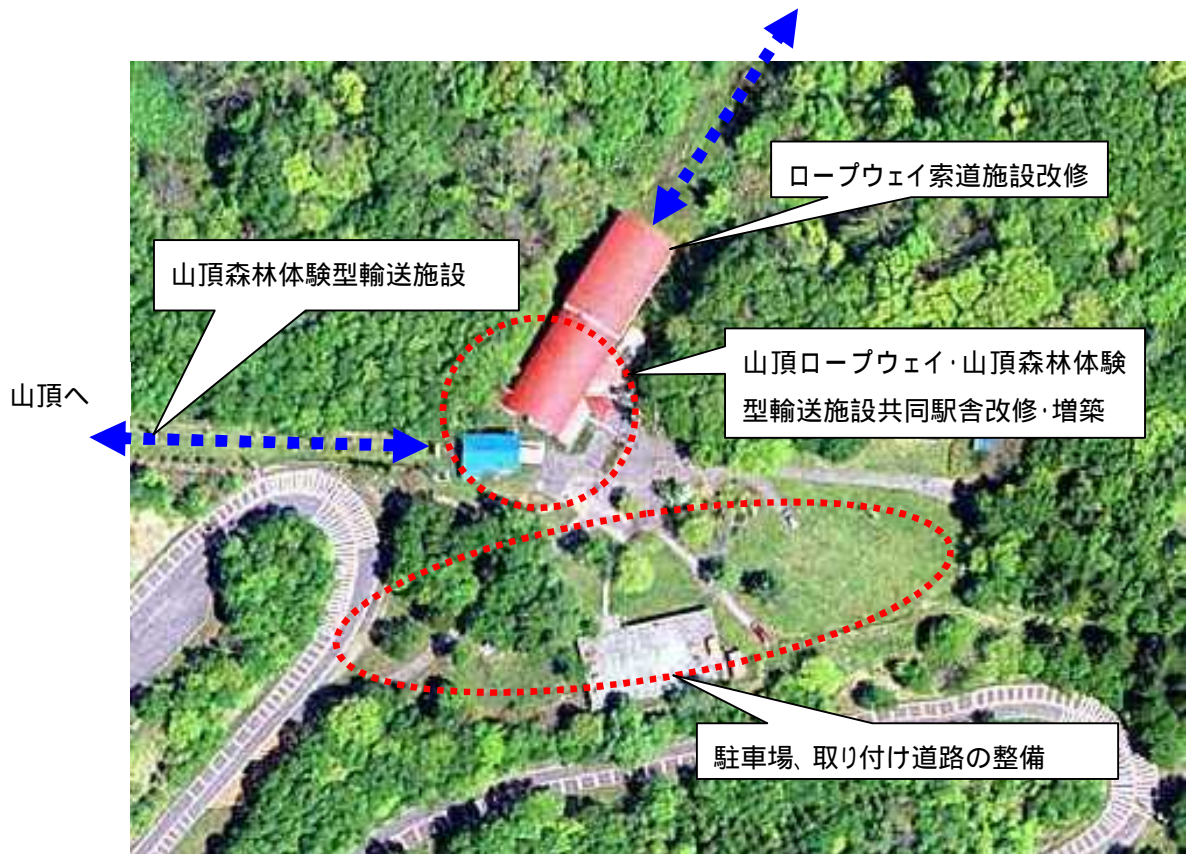
(4) 山麓 水道記念館散策路の設置

現在、山麓ロープウェイ駅舎に隣接した敷地は伏見東緑地として公園利用がされている。伏見東緑地は藻岩原始林の入り口で、元北海道帝国大学の教授であった故小熊捍博士の住居で歴史的建築物である小熊邸が喫茶店と形を変え再利用されている。山麓ロープウェイ駅舎から現在の伏見東緑地内の散策路を活用し、その北西方向にある札幌市水道記念館へ通じる散策路を検討する。これにより、両施設の連携と相互利用の促進を図る。



3-4-2 中腹エリア

ロープウェイ、観光道路を利用して訪れる来訪者が山頂に向かう際の起点となるエリアである。ここから藻岩山の豊かな自然環境に触れながら、誰もが容易に山頂を目指せるよう森林体験型輸送施設や自然学習歩道などの施設整備を行う。



(1) ロープウェイ索道施設改修

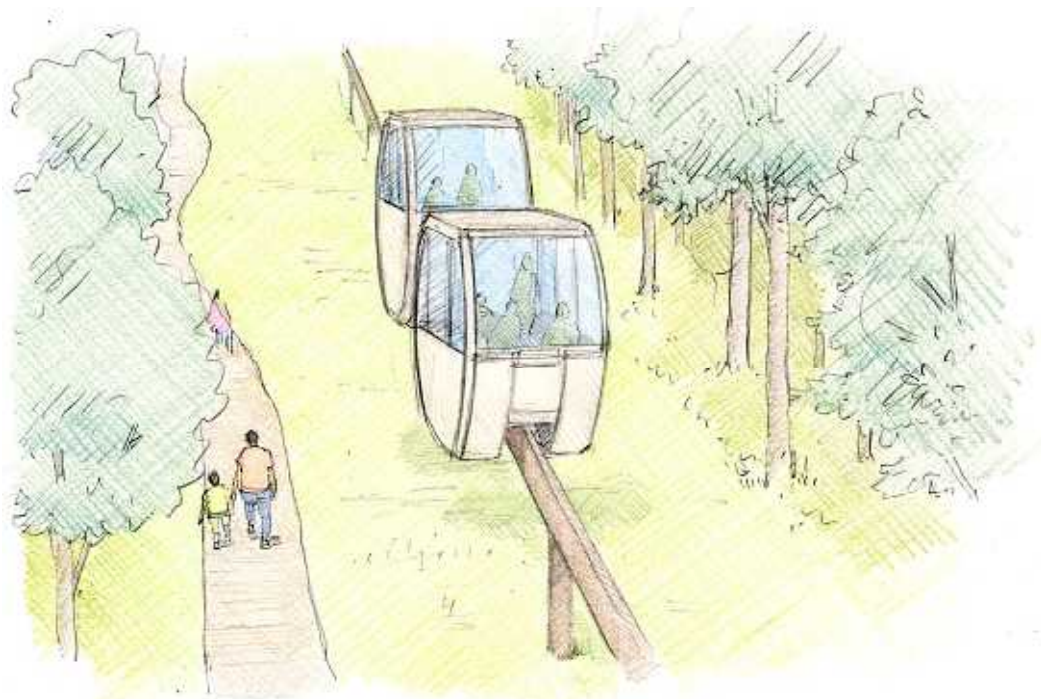
ロープウェイは、冬期には観光道路が閉鎖となることや自動車と比較した場合の環境負荷低減の観点から、山頂へのアクセス手段として有効と考えられ、老朽化した施設の抜本的な改修が求められている。ロープウェイ索道施設全体の老朽化が進む中、安全性に常に配慮し、点検整備・メンテナンス補修・部品の交換等が行われ安全性を確保している。

ロープウェイの改修については、「都心からのアクセス、景観への配慮、藻岩山の貴重な森林の環境負荷などを考慮した結果、現行ルート及び可能な限り現施設を生かした改修」を行うとした「藻岩山魅力アップ構想」を踏まえた改修を検討する。

ロープは3年前に交換が済みであり、今回の全体の再整備に合わせ、ロープウェイ索道施設改修はゴンドラ（搬器）の交換、動力系・駆動系・制御系設備等の改修を予定している。

(2) 山頂森林体験型輸送施設の新設

旧リフト索道用地を利用して、山頂森林体験型輸送施設の新設を予定している。乗客人数は、ロープウェイから乗り継ぎする乗客数と中腹まで乗用車を利用する乗客数を勘案し、環境への負荷が少なく輸送能力の大きい電動モーターで動く山頂森林体験型輸送施設を現在計画している。



山頂森林体験型輸送施設イメージパース

(3) 駐車場、取り付け道路（観光道路と接続）の整備

中腹から山頂への移動は現在、送迎バス「モーリス号」等で行われている。計画中の山頂森林体験型輸送施設の設置により、有料道路を利用してきた観光客にもこの輸送施設の利用を可能とするため、駐車場整備を検討する。現在樹木も点在しており環境へ十分配慮しながら駐車場の配置計画を行う。山頂への乗用車の乗り入れ数を減らすことにより、山頂での二酸化炭素の排出削減が期待できる。

(4) ロープウェイ山頂駅舎改修・増築

山麓ロープウェイ駅舎と同様に、索道設備が設置されている駅舎北東側半分を残し、利用者へのサービス・管理に使用している南西側の建物施設を解体撤去し、駅舎北西部に増築する方針とする。計画に当たっては、ユニバーサルデザインの考えに基づき、誰もが安全で容易にロープウェイと山頂森林体験型輸送施設との乗り換えができるような施設配置を検討する。

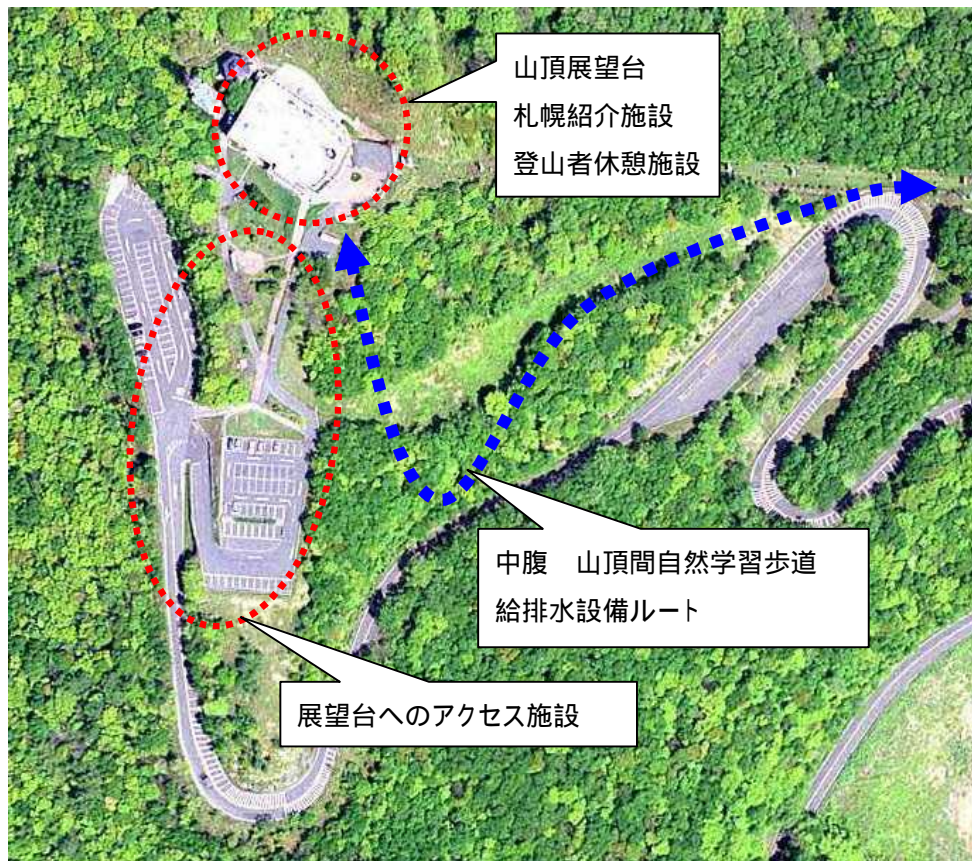


山頂ロープウェイ・山頂森林体験型輸送施設共同駅舎イメージパース

3-4-3 山頂エリア

藻岩山は円山原始林と同様、開拓初期より国有林として、その原始の姿が保護されてきた。そして大都市に隣接した地域にありながら、市民に親しまれ保護されてきたことは、天然記念物の価値をより一層高めている。世界的にみても市域に原始林に近い天然林があることは例が少なく非常に貴重である。展望台からこの天然林の樹海を通して眼下に見える札幌の町並みは、訪れる人々の心に「住んでみたい都市」として深く刻まれる。

本計画では「第4次札幌市長期総合計画」の施策である「人と自然が調和したまちづくり」「緑ゆたかなうるおいのあるまちづくり」を念頭に整備計画を進めていく。山頂展望台を新しく建て替え、施設内には札幌の様々な側面を藻岩山ならではのシステムで映し出す札幌紹介施設、環境学習の場として自然レクチャー施設を設置する。さらに訪れる人々が藻岩山の豊かな自然を体感できる「中腹 山頂間自然学習歩道」を整備する。



(1) 山頂展望台

展望機能充実のための屋上展望台、屋内展望台、展望テラスや市民、登山者、観光客に対応するための施設を適正に配置する。展望台施設は、施設の長寿命化を図ると共に、間伐材などを含む低環境負荷材の採用を検討していく。

さらに地球温暖化対策の一つとして、環境への負荷の少ない新エネルギーの導入を進め、太陽エネルギーのうち、光を電気に変える太陽光発電システム等の省エネルギー設備を積極的に採用していく。



1) コンセプト

眺望と多様なアクティビティを融合させた、何度も訪れたくなる展望台施設の実現

市街地からのアクセスに優れ、美しい札幌市街地の夜景と共に、季節ごとに変化する自然景観を楽しめる施設とする。「プロポーザル選定事業者の提案も踏まえて」藻岩山に多様なアクティビティを生み出す施設計画とし、豊かな自然とのふれあい、環境理解を通じた賑わいを創出していく施設を目指し、国際観光都市「札幌」を代表する観光スポットとする。

2) 基本構成

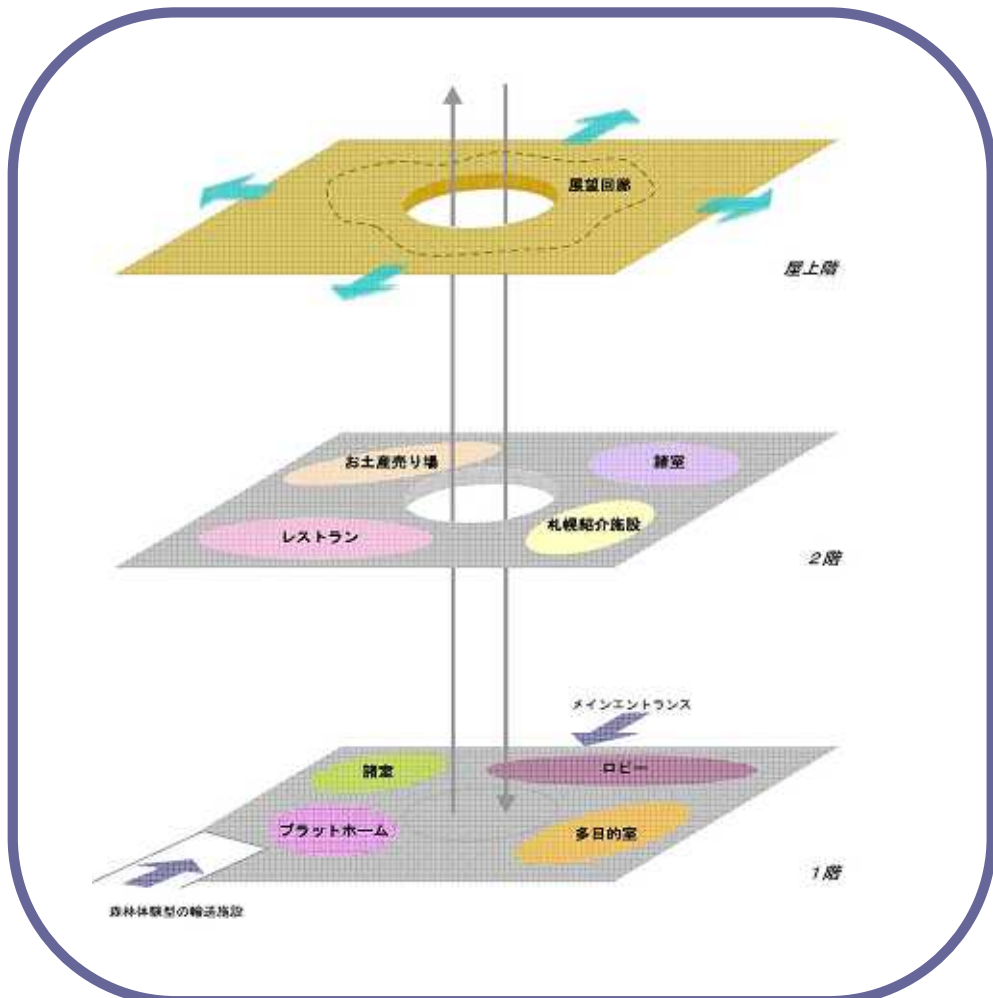
「森林体験型輸送施設を施設内に直接乗入れ、上下の移動動線を施設中央部に設置し、その周りに展望台施設に必要とされる各機能を配置する。

1階 エントランス機能を中心にワクワク感を創出

森林体験型輸送施設のプラットフォーム、待合ロビー、エントランス、多目的室等で構成し、藻岩山で活動する団体の活動スペースとしての利用や市民、観光客、登山者との交流機能を検討していく。

2階 美しい眺望と様々な藻岩山観光を表現

屋内から360度の眺望を実現するため、エレベーターやホールを中央に配置し、レストラン、物販、札幌紹介施設等をその外側に配置する。レストランでは眺望を楽しみながら豊富なメニューを提供できるよう検討するとともに、魅力ある商品を揃えた売り場の構築や札幌紹介施設も含めて相互に連携した運用を行うことで集客効果を高めることを検討していく。屋上は、エレベーターで直接出られるようにするとともに、360度の眺望を楽しむ施設とする。また、観光客などが思い出の場所として記憶に残るような仕掛け作りを検討していく。



3) 展望施設機能

自然環境への配慮

- ・クリーンエネルギーを活用し、環境保全に対し積極的に取り組んでいく。
- ・周辺の自然環境との調和する景観形成を進める。

人にやさしく、わかりやすい施設

- ・施設全体でバリアフリー、ユニバーサルデザインに対応した人にやさしく、わかりやすい施設とする。

地元の天然素材の積極的活用

- ・環境配慮の視点から建物内外の仕上げは、地元の天然素材を積極的に取入れた施設計画を行う。

集客・収益性の向上

- ・集客・収益性を高める施設計画を行なう。
- ・展望台としての機能を高める方策を検討する。

(2) 展望台へのアクセスについて

現在、観光道路は観光用・業務用・緊急用などの複合ルートとして利用されている。観光バス、一般乗用車などの観光客から、物資搬入出の業務用、ロープウェイ停止時などの緊急時の下山手段として、複合的な利用が行われている。

山頂での一般車両の乗り入れを減らすことにより二酸化炭素削減を目指し、山頂展望台の一般車両用駐車場の削減を検討する。また、誰もが容易に展望台施設に到達できるよう、ユニバーサルデザイン思想（年齢や障がいの有無などにかかわらず、最初からできるだけ多くの人が利用可能であるようにデザインする。）に基づき、山頂部へのアクセスについては、インフラ・運用の両面から検討する。道路の設置により山頂にある自家用車用駐車場が縮小することから、前述のとおり、中腹に駐車場を計画する。

(3) 中腹 山頂間自然学習歩道

多くの来訪者が訪れる中腹山頂から山頂にかけては、既設登山道ルートとの整合性を図りながら、気軽に森林を学べる樹木解説版や誘導サインを設置した遊歩道を整備し、藻岩山の豊かな森林資源、自然環境を見て、聞いて、触れて、そして感じることによって、自然や森林の仕組み等を学ぶことのできるシステムを構築する。

(4) 札幌紹介施設

藻岩山は札幌を代表する観光スポットとして毎年多くの観光客、市民が訪れており、市街地を一望できる「札幌が感じられる場所・札幌が見える場所」であるという特性を活かし、札幌の地勢、歴史、文化、自然の紹介を行う施設を整備する。併せて、最大の魅力である眺望を気象条件に影響されずにいつでも体感でき、現実眺望と季節、時間を越えた映像の転換という藻岩山展望台ならではのシステムを創出する。

1) 位置づけと役割

「札幌が感じられる場所・札幌が見える場所」である特性を活かし、札幌の現在、歴史、地勢、自然、文化、観光等を高質な映像で紹介する。

今の札幌を紹介することで、下山後の他の観光スポットへの誘導を図る。

来訪時とは異なる季節の札幌（雪まつり、よさこい等）の迫力ある映像を提供することで、札幌再訪への動機づけを図る。

悪天候、視界不良時においても藻岩山からの素晴らしい眺望が楽しめる仕組みを構築する。

藻岩山の四季、自然を紹介することで、環境保全の重要性や意識の醸成を図るとともに、環境教育、森林学習の場としても位置づける。

2) 映像コンテンツの方針

この施設で提供される映像については、現実眺望と映像眺望の転換効果を重視したクオリティの高さと観光客の札幌滞在行动に役立ち多様な来場者を飽きさせない新鮮さを追及するとともに、環境教育素材としての活用も考えた魅力あるものを制作する。

(5) 登山者休憩施設

一般観光客とは異なる登山者特性を考え、独立棟として施設計画を行なう。給排水設備を考え、本事業において新規に敷設する給排水設備が利用できる位置に設置できるよう計画する。また、藻岩山の自然景観に配慮し、施設全体のデザインコンセプトにも工夫を凝らした設計計画を行なうものとする。

(6) 給排水施設

山頂展望台の改修をはじめとした施設の再整備実施に伴い、エリア内にはこれまで以上に多くの来場者が滞留することが想定される。これらの水需要への対応と衛生、環境面の課題解決を図るため、給排水施設の整備を検討する。

藻岩山魅力アップ構想施設再整備 基本計画(案)

平成 21 年 3 月

発行 札幌市観光文化局観光部
〒060-8611 札幌市中央区北 1 条西 2 丁目
(011)211-2376

株式会社 札幌振興公社
〒060-0012 札幌市中央区北 12 条西 23 丁目 5 番地
(011)616-1601